

岡本一平著並画『探訪画趣』序

夏目漱石

青空文庫



私は朝日新聞に出るあなたの描いた漫画に多大な興味を有<sup>も</sup>つて  
いる一人であります。いつか社の鎌田君に其話をして、あれなり  
にして捨ててしまふのは惜しいものだ、今のうちに纏<sup>まと</sup>めて出版し  
たら可<sup>よ</sup>かろうにと云つた事があります。其後あなた自身が見えた  
時、私はあなたに自分の描いたものはみんな保存してあるでしょ  
うねと聞いたたら、あなたは大抵散逸してしまつたように答えられ  
たので私は驚ろきました。尤<sup>もつと</sup>もそういう私も随分無頓着<sup>むとんじやく</sup>な方で、  
俳句などになると、作れば作つたなりで、手帳にも何にも書き留  
めて置かないために、一<sup>ちよつと</sup>寸短冊などを突きつけられて、忘れた  
ものを思い出すのに骨の折れる場合もあります、それは私がそ

の道に重きを置いていない結果だから、仕方がありませんが、貴<sup>あ</sup>方の画は私の俳句よりも大事にして然るべきだと私はかねてから思っていたのだから、それを揃<sup>そろ</sup>えて置かない貴方の料<sup>りようけん</sup>簡<sup>けん</sup>が私には解らなかつたのです。

あなたは私に云われて始めて気が付いたように工場の中を探し廻<sup>まわ</sup>つたというじゃありませんか。そうして漸<sup>ようや</sup>くそれを出版する丈<sup>だけ</sup>に纏<sup>まと</sup>めたのだそうですね。左右<sup>そう</sup>なればあなたの労力が単独に世間に紹介されるといふ点に於<sup>おい</sup>て、あなたも満足でしょう、最初勧誘した責任のある私も喜ばしく思います。私ばかりではありません、世の中には私と同感のものがまだ沢<sup>たくさん</sup>山<sup>さん</sup>あるに違ないのです。

普通漫画というものには二た通りあるようです。一つは世間の

事相に頓とんじやく着ちやくしない芸術家自身の趣味なり嗜好しこうなりを表現するもので、一つは時事につれて其日々々の出来事を、ある意味の記事同様に描き去るのです。時と推し移る新聞には、無論後者の方が大切でしょうが、あなたはその方面に於ての成功者じゃなからうかと私は考えるのです。私が最初あなたに勧めて、年中行事と云うようなものを順次にならべて一卷にしたら何どうだろうと云つたのは、是これがためなのです。見る人は無論あなたの画から、何時いつ何どんな事があつたかの記憶を心のうちに呼び起すでしょう、しかも貴方の表現したような特別な観察点に立つて、自分がいまだかつて経験しなかつたような記憶を新らしくするでしょう。此二つの記憶が経となり緯となつて、ただでは得られない愉快が頭の中

に満ちて来るかも知れません。忙がしい我々は毎日々々蛇へびが衣を脱ぐように、我々の過去を未練なく脱いで、ひたすら先へ先へと進むようですが、たまには落ち付いて今迄通つて来た途みちを振り向きたくなるものです。其時茫ぼうぜん然と考えている丈だけでは、眼に映る過去は、映らない時と大差なき位に、貧弱なものであります。あなたの太い線、大きな手、変な顔、すべてあなたに特有な形で描かれた簡単な画は、其時我々に過去は斯こんなものだと思くえて呉くれるのです。過去はこれ程馬鹿気て、愉快で、変てこに滑稽こっけいに通過されたのだと教えて呉くれるのです。我々は落付いた眼に笑たを湛たえて又齷あくせく齷せくと先へ進む事が出来ます。あなたの観察に皮肉はあります、苦にが々にがしい所はないのですから。

もう一つあなたの特色を挙げて見ると、普通の画家は画になる所さえ見付ければ、それですぐ筆を執ります。あなたは左右でないうようです。あなたの画には必ず解題が付いています。そうして其解題の文章が大変器用で面白く書いています。あるものになると、画よりも文章の方が優っているように思われるのさえあります。あなたは東京の下町で育ったから、斯ういう風に文章が軽く書きこなされるのかも知れませんが、いくら文章を書く腕があつても、画が其腕を抑えて働らかせないような性質のものならそれ迄です。面白い絵説の書ける筈はありません。だから貴方は画題を選ぶ眼で、同時に文章になる画を描いたと云わなければなりません。その点になると、今の日本の漫画家にあなたのようなもの

は一人もないと云つても誇張ではありませんまい。私は此絵と文とをうまく調和させる力を一層拡大して、大正の風俗とか東京名所とかいう大きな書物を、あなたに書いて頂きたいような気がするのです。

六月十五日

夏目金之助

岡本一平様

# 青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚版 夏目漱石全集 10」筑摩書房

1972（昭和47）年1月10日第1刷発行

※吉田精一による底本の「解説」によれば、発表年月は、1914（大正3）年6月15日。

入力：Nana ohbe

校正：米田進

2002年4月27日作成

2003年5月11日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.azora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 岡本一平著並画『探訪画趣』序

夏目漱石

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>